

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400732		
法人名	社会福祉法人 紫雲福祉会		
事業所名	グループホームおおつるの家 オレンジユニット		
所在地	大分県日田市大鶴町2267-1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和2年8月25日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和 2年	7月	27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの方針である『利用者の思いに気づき、迅速にひとりひとりにあった対応をする』を頭に置き、迷ったら方針に基づいて職員が行動できるように取り組んでいます。  
利用者さんが、いつもと変わらない日常生活を過ごせるようにまた、茶碗ふき、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除など手伝ってもらい、自分の役割ができるよう、支援を行っています。  
食事は、利用者さんに皮むきや味付けをお願いし、地産地消のお野菜、季節のものを取り入れた献立です。  
利用者さんと一緒に職員も笑顔で過ごせることを目指しているグループホームです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所独自の目標と方針を掲げ、日々利用者本位の支援に取り組んでいる。  
・各ユニットでそれぞれ手作りの食事を、地産地消の材料を使い提供されている。利用者も参加し、出来ることを手伝っている。  
・職員同士のコミュニケーションがとれていて、災害時、利用者家族の被災時にもボランティア活動を行った。また事業所内でも豪雨時、臨機応変に勤務時間を超え、宿泊して不安や混乱なく過ごせた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアーに、事業所目標、方針を提示し毎日職員が唱和している。毎月の『振り返りシート』で自己評価を行っている。	法人理念とは別に、事業所独自の目標と方針を掲げ、毎日唱和している。目標と方針については毎年、職員で検討し、日々のケアに活かしている。法人理念については変更予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が12月に「餅つき大会」をしてくれ利用者も一緒に参加。保育園からの慰問、中学校の文化祭見学、地域の野菜屋さん、米屋さんの利用。	中学校の文化祭見学でカレーを食べたり、餅つき大会では地域の人10人以上の参加があり、毎年楽しみの一つとなっている。また、散歩で出会った人が声をかけてくれたり自治会に加入するなど地域に密着した事業所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場訪問では、認知症について、社会福祉士養成学校生には、支援方法など具体的に話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議に自治会長、各ユニットのチーフも参加し、参加者の意見を聞くことで、サービスの向上に努めている。	現状報告の中で、参加者から服薬確認の指摘があり、職員で話し合いを行いサービスに活かした。自治会長からふるさと祭に招待され、参加した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には、運営推進会議に毎回参加して意見をもらっている。気軽に相談できる関係である	市とは身体拘束について(玄関の施錠など)の相談をし、アドバイスをもらうなど、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、拘束(玄関施錠)を行っており、ご家族、主治医、市とも協議をおこない、施錠の記録、評価を行っている。	法人内で年4回の研修を行い、現在はスピーチロックについて取り組んでいる。職員会議で自らを振り返る機会を設け報告しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議で話をしている。スピーチロック、虐待について、職員と理解を深める取組をしている。		

事業者名:グループホームおつるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者はいないが、管理者がグリーンユニットの状態を職員に伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、なるべくチーフに同席してもらい、契約中に、不安点、疑問点を聞き、その都度理解、協力を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の『むすびの会』(7月 会議のみ、10月交流会)や、運営推進会議(年6回)での意見は、職員に伝達している。本人、家族の声は、迅速に対応している。	年2回行われる家族会では、会議形式と交流会を行っている。会議の中では外出のボランティアに参加しても良いとの意見が出たが、まだ実現できてない。面会時にも意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、職員会議、チーフ会議を毎月おこない、意見要望を聞いている。	勤務時間や有給休暇についての要望はもちろん、風呂場の手すり設置についての提案も話し合いの結果反映された。意見や要望は気軽に言える体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に、施設長と職員が面接を行い、要望や提案を聞く場を設けている。毎月の振り返りシートの提出に、管理者がコメントをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて、職員の意識づけをし、その都度、シフトの変更を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の合同研修は、全員が参加できるように調整している。去年は、グループホーム協議会での職員交流会にも参加できた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、本人の話をよく聞き、安心して過ごして頂けるように、信頼関係気づけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時、困っていること要望を聞き、当グループホームでの対応、可能な支援を家族に了解、協力頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、家族の思いを聞きながら、どのようなサービスが必要なのか、その都度話をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目標に基づき「みんなで支えあう」という意味を理解し、利用者から職員が助けられる関係を崩さないよう職員は関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者家族に合わせて、夜の面会など柔軟な対応を行っている。また、今回、新型コロナ対策のため、面会中止期間が長かったので、テレビ電話の対応も行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係性が途切れないように、必要に応じて外出支援も行っている。	馴染の床屋を利用したり、馴染のお店に買物に行ったり、親せきの人が訪ねて来たり、自宅に連れて行き、仏壇にお参りするなど、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在、利用者さん同士の話や、くもん学習では相手に負けないように頑張ることや、理解力の低下した人を攻撃することがみられるので、職員がなかに入って声掛けをしたり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方を一度は、次の施設に面会に行ったり、家族から相談を受けることがあり、わかる情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添えるように、話をよく聞くことに努め、できる支援を行い、不安感が大きくなるように支援している。	公文書の学習を取り入れ、勉強時や、居室、洗い物時に色々な話を聞くことが出来、希望や意向の把握に努めている。把握したことは職員で共有し日々のケアに活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にはわからないことも、本人、家族との話で聞いたことは、職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとり違うことを職員理解し、記録、職員会議、申し送りで現状を伝え、毎日の支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録、申し送りからの気づきを、家族、主治医との連絡を密にとり話し合いを行っている。	月に一度のモニタリングを行い、必要に応じて計画の見直しを行っている。介護計画は記録や申し送りノート、家族や医師とも連携を取りながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、申し送りを職員が共有すること、また職員に詳しく聞き、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの支援に加え、利用者さんが穏やかに毎日を過ごせるように、ご家族の思いを柔軟に職員と一緒に考えて支援に取り組んでいる。		

事業者名:グループホームおおつるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会、小中学校行事にはなるべく参加をおこない、当園の祭りでは地元の人と交流できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医に受診が継続できるように、また急変時は家族と連絡を取りながら、職員が対応している。	ほとんどの人が元々のかかりつけ医となっている。受診は訪問診療のほか、家族の支援で通院している。家族が対応できない場合は事業所で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには、看護師がいないのでデイの看護師とは気軽に相談できる関係である。看護婦に相談、助言により主治医、家族と連絡をとり支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報提供表を持参し、グループホームでの詳しい様子は口頭で伝え、退院カンファレンスに参加。退院後も看護師さんに指示をもらえるよう関係性を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时、入所時に、事業所のできる支援を話し家族に理解して頂いての利用を決めて頂いている。体調変化による支援変更があった時は、主治医と家族と話し合いを行い、できる支援を行っている。	入居時に重度化や終末期の対応についての事業所方針を説明し、了解を得ている。重度化した場合、家族や医師とも連携をはかりながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、園内研修等による救急救命の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度の火災避難訓練、年一度は地域の消防団を交えた訓練を行っている。タンカや車いすを使った訓練も利用者さんで行っている。家族会では、災害時の避難について理解をお願いしている。	近頃の豪雨災害を踏まえ、自然災害時は事業所で過ごすことを家族にも了解を得ている。実際の豪雨の時も職員の機転により、家族が宿泊をしてくれ利用者も混乱なく過ごせた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックに注意し、利用者さんと話を聞くことを行っている。利用者さん同士の口論には、職員が中にはいることを行っている。	入浴時、同性介助の希望があれば希望に沿っている。一人ひとりの生活を主体に考えプライバシーを損ねない支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節の食事や、外出など利用者の声をきいて、その日のメニューを変更したり、柔軟に対応していける体制を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを理解し、利用者さんに確認しながら、進めている。認知症の理解を深めるように勉強会をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には、入浴後の着替えを職員と一緒に選んだり、身だしなみに注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地産地消の野菜を使い、季節のメニューに変更したり、利用者さんが茶碗拭きやテーブル拭き等できることに参加してもらっている。	各ユニットでそれぞれ職員による手作りの食事を提供している。誕生会には本人の希望する献立にしている。年2回高塚さん参拝時に食べるうどんも楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量は、個別に記録している。水分制限がある方には、間隔があくように何かをお願いする対応を行っている。体重測定も月2回に変更して管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。自分で出来ない方は、職員が介助している。2週間に1回の歯科往診でブラッシング指導を受けている。		

事業者名:グループホームおつるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、支援している。夜間も行い、PTイレ利用者はいない。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、全員が日中トイレを利用している。夜間も出来るだけトイレ利用を促すが、パットを利用し、安眠を損ねない配慮もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトは、朝のおやつに取り入れている。排便が自分で出来ない方は、トイレに長く座ってもらうなど支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	急に、今日はお風呂に入ったかね。と言われる方には、予定外でも対応できている。	基本最低週3回の入浴となっているが、希望に応じて毎日入る人にも対応し、同性介助の希望にも合わせ、大切に支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でも、フロアのソファで、いつでもゆっくり過ごして頂けるように、整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった時は、職員が共有する。服薬ミスがないように、服薬を準備する人、セットする人、飲んでもらう人が別の職員で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ができること、茶わん拭き、洗濯物たみ、モップかけをお願いすることで、笑顔で頑張ってくれる。アルコールの好きな方は、誕生会などノンアルコールを飲んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族対応で、外出、帰宅のお願いをしている。ユニットごとの外出を行い、おやつを食べて帰ってくる等、近隣にも出掛けている。近所を散歩するのは、職員見守りで行っている。	季節ごとの外出はもちろん、個々に応じた散歩や、ドライブの支援をしている。年2回の高塚さん参拝も楽しみの一つである。家族の協力で自宅に戻ったり外食を楽しんでいる。	



事業者名:グループホームおつるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと、お金を持っている人がいる。外出の時に、自分でそのお金で支払いされる。ティッシュの中にお金を包んでいる方もいるので、その時は、事務所でお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば電話をかけ、ユニットの携帯に電話があればつないで話をしている。家族からハガキが来たら、はがき(写真)で返信している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、花を飾ったり、行事を取り入れている。室温、湿度の管理を行い冷暖房の管理をしている。	共有空間では利用者が職員の手作りのパズルで楽しんだり、公文書の学習をしたり、テレビを見たり、それぞれのおもいに寄り添っている。台所は対面式になっており、手伝いをする利用者も一体となって家族観を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、自分の場所に名前を貼ってわかりやすく提示している。テーブルは、隣同士で思い思いに過ごし話ができる関係であり、見守りしたり、会話の提供を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入所時家族に、日ごろ使いたいのものを持ってきていただくようお願いしている。(テレビ、仏壇、ラジオ、テーブル、いす等)	各居室はテレビや家族写真、表彰状などが置かれ、それぞれに個性的な居室となっている。洗面所には化粧品や洗面用具が置かれ、住みごこちのよい自室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋や、トイレがすぐわかるように、大きな文字で提示している。共有スペースは、安全に動けるように、段差、つまづきが無いように、注意して職員がみている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400732		
法人名	社会福祉法人 紫雲福祉会		
事業所名	グループホームおおつるの家 グリーンユニット		
所在地	大分県日田市大鶴町2267-1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和2年8月25日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和 2年	7月	27日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの方針である『利用者の思いに気づき、迅速にひとりひとりにあった対応をする』を頭に置き、迷ったら方針に基づいて職員が行動できるように取り組んでいます。  
 利用者さんが、いつもと変わらない日常生活を過ごせるようにまた、茶碗ふき、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除など手伝ってもらい、自分の役割ができるよう、支援を行っています。  
 食事は、利用者さんに皮むきや味付けをお願いし、地産地消のお野菜、季節のものを取り入れた献立です。  
 利用者さんと一緒に職員も笑顔で過ごせることを目指しているグループホームです。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**【グループホームおおつるの家 オレンジユニットに記載】**

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアーに、事業所目標、方針を提示し毎日職員が唱和している。毎月の『振り返りシート』で自己評価を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が12月に「餅つき大会」をしてくれ利用者も一緒に参加。保育園からの慰問、中学校の文化祭見学、地域の野菜屋さん、米屋さんの利用。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場訪問では、認知症について、社会福祉士養成学校生には、支援方法など具体的に話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議に自治会長、各ユニットのチーフも参加し、参加者の意見を聞くことで、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、運営推進会議に毎回参加して意見をもらっている。気軽に相談できる関係である		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束会議を法人で行い、管理者各チーフが参加、職員会議では、各職員が振り返りを報告している。また、オレンジユニットの拘束については報告をしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議で話をしている。スピーチロック、虐待について、職員と理解を深める取組をしている。		

事業者名:グループホームおおつるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援の利用者がいる。現在、任意後見人の申請を家族にお願いしている。管理者対応で、進行状態を職員に伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、なるべくチーフに同席してもらい、契約中に、不安点、疑問点を聞き、その都度理解、協力を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の『むすびの会』(7月 会議のみ、10月交流会)や、運営推進会議(年6回)での意見は、職員に伝達している。本人、家族の声は、迅速に対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、職員会議、チーフ会議を毎月おこない、意見要望を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に、施設長と職員が面接を行い、要望や提案を聞く場を設けている。毎月の振り返りシートの提出に、管理者がコメントをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて、職員の意識づけをし、その都度、シフトの変更を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の合同研修は、全員が参加できるように調整している。去年は、グループホーム協議会での職員交流会にも参加できた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、本人の話をよく聞き、安心して過ごして頂けるように、信頼関係気づけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時、困っていること要望を聞き、当グループホームでの対応、可能な支援を家族に了解、協力頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、家族の思いを聞きながら、どのようなサービスが必要なのか、その都度話をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目標に基づき「みんなで支えあう」という意味を理解し、利用者から職員が助けられる関係を崩さないよう職員は関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者家族に合わせて、夜の面会など柔軟な対応を行っている。また、今回、新型コロナ対策のため、面会中止期間が長かったので、テレビ電話の対応も行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係性が途切れないように、必要に応じて外出支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在、利用者さん同士の話や、くもん学習では相手に負けないように頑張ることや、理解力の低下した人を攻撃することがみられるので、職員がなかに入って声掛けをしたり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方を一度は、次の施設に面会に行ったり、家族から相談を受けることがあり、わかる情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添えるように、話をよく聞くことに努め、できる支援を行い、不安感が大きくなるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にはわからないことも、本人、家族との話で聞いたことは、職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとり違うことを職員理解し、記録、職員会議、申し送りで現状を伝え、毎日の支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録、申し送りからの気づきを、家族、主治医との連絡を密にとり話し合いを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、申し送りを職員が共有すること、また職員に詳しく聞き、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの支援に加え、利用者さんが穏やかに毎日を過ごせるように、ご家族の思いを柔軟に職員と一緒に考えて支援に取り組んでいる。		

事業者名:グループホームおおつるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会、小中学校行事にはなるべく参加をおこない、当園の祭りでは地元の人と交流できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医に受診が継続できるように、また急変時は家族と連絡を取りながら、職員が対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには、看護師がいないのでデイの看護師とは気軽に相談できる関係である。看護婦に相談、助言により主治医、家族と連絡をとり支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報提供表を持参し、グループホームでの詳しい様子は口頭で伝え、退院カンファレンスに参加。退院後も看護師さんに指示をもらえるよう関係性を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时、入所時に、事業所のできる支援を話し家族に理解して頂いての利用を決めて頂いている。体調変化による支援変更があった時は、主治医と家族と話し合いを行い、できる支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、園内研修等による救急救命の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度の火災避難訓練、年一度は地域の消防団を交えた訓練を行っている。タンカや車いすを使った訓練も利用者さんで行っている。家族会では、災害時の避難について理解をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックに注意し、利用者さんと話を聞くことを行っている。利用者さん同士の口論には、職員が中にはいることを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節の食事や、外出など利用者の声をきいて、その日のメニューを変更したり、柔軟に対応していける体制を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを理解し、利用者さんに確認しながら、進めている。認知症の理解を深めるように勉強会をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には、入浴後の着替えを職員と一緒に選んだり、身だしなみに注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地産地消の野菜を使い、季節のメニューに変更したり、利用者さんが茶碗拭きやテーブル拭き等できることに参加してもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量は、個別に記録している。水分制限がある方には、間隔があくように何かをお願いする対応を行っている。体重測定も月2回に変更して管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。自分で出来ない方は、職員が介助している。2週間に1回の歯科往診でブラッシング指導を受けている。		



事業者名:グループホームおおつるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、支援している。夜間も行い、PTイレ利用者はいない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトは、朝のおやつに取り入れている。排便が自分で出来ない方は、トイレに長く座ってもらうなど支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	急に、今日はお風呂に入ったかね。と言われる方には、予定外でも対応できている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でも、フロアのソファで、いつでもゆっくり過ごして頂けるように、整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった時は、職員が共有する。服薬ミスがないように、服薬を準備する人、セットする人、飲んでもらう人が別の職員で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ができること、茶わん拭き、洗濯物たたみ、モップかけをお願いすることで、笑顔で頑張ってくれる。アルコールの好きな方は、誕生会などノンアルコールを飲んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族対応で、外出、帰宅のお願いをしている。ユニットごとの外出を行い、おやつを食べて帰ってくる等、近隣にも出掛けている。近所を散歩するのは、職員見守りで行っている。		

事業者名:グループホームおおつるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと、お金を持っている人がいる。外出の時に、自分でそのお金で支払いされる。ティッシュの中にお金を包んでいる方もいるので、その時は、事務所で預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば電話をかけ、ユニットの携帯に電話があればつないで話をしている。家族からハガキが来たら、はがき(写真)で返信している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、花を飾ったり、行事を取り入れている。室温、湿度の管理を行い冷暖房の管理をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、自分の場所に名前を貼ってわかりやすく提示している。テーブルは、隣同士で思い思いに過ごし話ができる関係であり、見守りしたり、会話の提供を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入所時家族に、日ごろ使いなれたものを持ってきていただくようお願いしている。(テレビ、仏壇、ラジオ、テーブル、いす等)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋や、トイレがすぐわかるように、大きな文字で提示している。共有スペースは、安全に動けるように、段差、つまづきが無いように、注意して職員がみている。		